

通谷池

(とおりたにいけ)



ため池の概要

ため池の所在地

愛媛県砥部町

ため池の特徴

通谷池は、石鎚山麓にある面河ダムからの農業用水を貯留し、1250haの田畑をかんがいする大規模なため池です。

池周辺では、築造時に地元の人が植樹した桜が現在は名所となっており、また動物園や東屋が整備され、湖面ではボートが楽しめます。

池にはガマが生育し、夏から秋にかけては淡水クラゲを見ることができます。冬場は小鴨の飛来地となるほか、数多くのサギが羽を休める姿を見ることができます。

この地域は、明和8年(1771年)の大干ばつで、水争いによる死者が出るなど古くから水の苦勞が絶えませんでした。赤坂泉ができて揉め事は収まったものの、依然農業用水は不足していました。こうした背景をもつ通谷池は、寛政5年(1793年)に宮内村と麻生村の共有という形で造られました。

完成後は、通谷池と赤坂泉の用水を合わせ、砥部町、伊予市の水田を潤しています。

地元自治会や民間企業等が「通谷調整池環境保全推進協議会」を設立し、美化活動や植栽を行い、地域のため池として大切に管理されています。

また管理者である土地改良区は、湖面に噴水施設を設置して水を攪拌し、プランクトンの異常発生を抑えるなど、水質保全にも取り組んでいます。

関連情報